

技術・家庭科 家庭分野

富永 暁菜

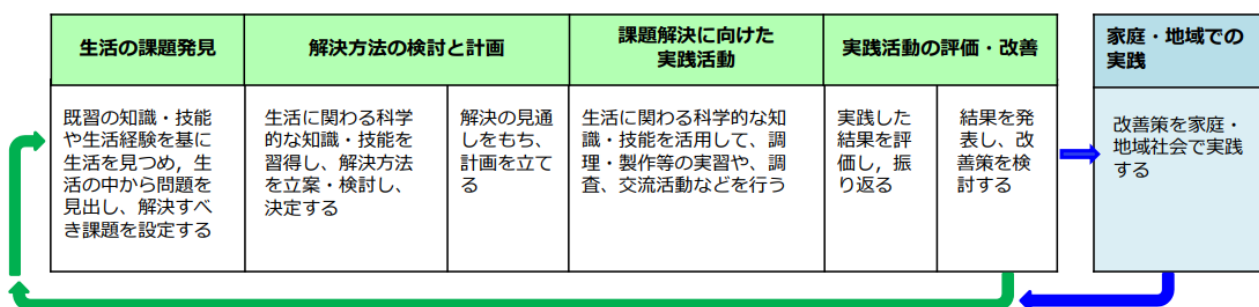
1 研究主題との関連について

(1) 「教科等本来の魅力」について

家庭科の教科は「生きる力」を高める教科として自分と家族・家庭と向き合い、さらに社会問題と触れながらそこが自分とどう繋がるかを考えたり、当たり前なことに疑問を持ったりすることが大事になってくる。教科等本来の魅力に関しては、「日々の生活の中で課題を見出し、それを問題解決するために実践する力を育むことでその力が自分の生活をより豊かにする」と考える。また生徒が正しい知識を実践的・体験的に習得し、それを家庭や社会で実践し発信することで個人の生活の幸せ（心身ともに健康で豊かに生きる）だけでなく、社会全体、環境にも良い影響力があるということを生徒にも伝えることができる教科である。まさに本校が「グローバル時代をきりひらく資質・能力」を育むための学びを豊かなものにする 것과繋がる。

中学校の家庭科では「A 家庭・家庭生活」「B 衣食住の生活」「C 消費生活・環境」の3つの内容に分けられ生活の土台の“自立”と“共生”に向けて人間育成に育む。さらに A, B, C の各内容に位置づけられた「生活の課題と実践」では他の内容と関連を図りながら工夫して授業を行う。また平成29年度に告示された中学校技術・家庭科家庭分野の目標は3つの柱が示されている。(1)「知識及び技能」、(2)「思考力、判断力、表現力等」、(3)「学びに向かう力、人間性等」でそれぞれ構成されている。3つの柱を相互に関連させることにより、家庭分野全体の資質・能力の育成につながると考えられる。図1では文部科学省が技術・家庭科（家庭分野）の学習過程を例に出している。家庭科の授業では同時に本校が定めた逆向き設計論に基づき求められている結果（姿）を生徒に明示しながら授業展開をしている。

図1 技術・家庭科（家庭分野）の学習過程（案）



出典：文部科学省 HP

(2) 「教科等本来の魅力に迫るための教師の資質能力」について

生徒が3年間の見通しを持ち、(1)教科等本来の魅力であげた3つの目標を達成するために、教師は日々多様な社会に柔軟に対応し、知識をアップデートする必要がある。具体的には表1に示す。

表1 家庭科本来の魅力に迫るための教師の資質・能力

資質能力	教科等が考える「教師の資質能力」の具体
授業構想力	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の実態を把握し学習内容から目標を設定する視点 ○近年の問題を取り上げ、今・未来の私たちの生活に繋げる視点 ○実生活に繋がる物を教材とし、実際に見て触れ体験し生徒の体験的な学習を増やす視点
授業実践力	<ul style="list-style-type: none"> ○個々の進度を把握し、柔軟に実習に取り組む視点 ○対話的な授業の中で生徒の発言をキャッチし、それを生かし学びを深める視点 ○生徒が先の見通しが確認できる板書計画や安全に授業を行えるようにするための環境づくりをする視点
授業分析・評価力	<ul style="list-style-type: none"> ○実態調査をし、分析・評価し、生徒に示す視点 ○3学年3つの内容をシラバスに組み入れることで繰り返し学習や繋がりを持たせる視点

2 本年度の研究計画

(1) 研究の目的

コロナ禍が明けつつある今、これからの生活を展望した時間軸を意識すると、より自分の未来を明るく創造ができるようになったと感じる。本年度は A, B, C の各内容に繋がりをより持たせ、1・2年生で学習したことを3年生での学習に取り入れ点と点が繋がり合うことを意識させた。また他教科との関連するところにも着目し、消費生活では社会科と連携することを計画している。今日実践的な活動を家庭や地域などで行うなどの工夫が求められる。3つの分野の繋がり、他教科との繋がり、家庭・社会の繋がりを充実させることで、家庭分野が担う資質・能力の育成を目指すことにつながると考える。

(2) 研究の方法

表1で示している「家庭科本来の魅力に迫るための教師の資質・能力」を視点として授業構想・実践を行い、分析・評価すること。さらに図1で示している技術・家庭科(家庭分野)の学習過程を参考に行っていく。

(3) 検証の方法

○「知識及び技能」を習得するにあたっては、実践的・体験的な活動を通して、生徒一人ひとりのよさや個性を生かしながら身に付けるようにする。

<定期テスト、調理、制作等の実習や観察、調査、実験>

○「思考力、判断力、表現力等」は家族・家庭生活や地域における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決するため力が身につけているかどうか評価する。

<行動観察、ワークシート、ポートフォリオ、相互評価>

○「主体的に学習に取り組む態度」は知識・技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身

に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面と、そのような取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面の二側面から評価する。

<行動観察，ワークシート，相互評価>

【引用・参考文献】

文部科学省（2017），『中学校学習指導要領解説（平成 29 年度告示）技術・家庭科編，開隆堂

開隆堂（2021），『9 開隆堂家庭 703 技術・家庭【家庭分野】』，開隆堂

鈴木明子，杉山久仁子（2022），『中学校技術・家庭 家庭分野新 3 観点の完全評価ガイドブック』，明治
図書出版

国立教育政策研究所 教育課程研究センター（2020），『「指導と評価の一体化」のための学習評価にか
んする参考資料【中学校 技術・家庭】』，東洋館出版社